

今回、長谷小学校開校百周年をむかえて、ひとしお感慨無量なるものがあります。

私が小学校に入学したのは、大正九年でありましたが、早いものでもうすぐ七十年になりました。まったく夢のようです。あの当時は着物を着て藁草履か下駄をはいての通学でした。雪の日は、下駄のはまに雪がはまってころころして歩かれず、石にけかけて雪を落したのも思い出の一つです。着物を着てゆくのは、われわれ生徒だけでなく、女子の先生も着物に袴姿で教壇に立たれていました。われわれ生徒も、天長節、紀元節の式日には着物に袴をはいて行ったものです。

式と言って思い出すのは、校長先生が白の手袋をして、うやうやしく勅語を読まれる時、深く頭を下げて聞き入る生徒のあちこちから「スルスル」と鼻汁を吸い上げる音が今も耳に残ります。

又、あの当時は、今の様に交通の便がよくなかったので、村外の先生方は、村内に家を借り

て、そこからの通勤でした。まれには、自転車を利用する男子の先生もおられたが、殆どどの先生が徒歩で通勤されたものです。

又、年度末ともなれば、先生の転勤があつて、御錢別を決まったように五銭持つて行ったものです。今では想像もつかないような金額ですが、諸物価を比較するとき、思い違いでもなさそうです。

みよりの秋ともなれば学校で、蔬菜や手芸の品評会が毎年催され、殆どどの家庭が農家とあつて、沢山の野菜が集まつたものです。特に多いのは、大根・白菜や葱・牛蒡等各種展示され、又手芸品は藁工品、竹細工をはじめ、生徒の学校の成績物等、数多く並べられて賑やかでした。

やがて、われわれが長く学んだ校舎も老朽化して、建て替えられることになり、仮校舎が松巖寺のところに建てられて、ここで勉強することになり、もちろん土砂で敷詰められた、小砂の上にならべられた机に向かつて、水の流れる音、小鳥のさえずる声が入ってくる教室での勉強、

又、休み時間ともなれば、川での遊び等、思い出多い仮校舎時代でありました。

建築中の校舎もわれわれが、高等科を卒業する直前には、立派なものが出来ました。

又、何時までたつても忘れることの出来ないのが、取りこわされた旧校舎の一部を買いうけて、わが家の当時の養蚕室、並びに牛小屋として建てたことで、今は養蚕を止め、牛も居ないけれど、物入場として、わが家にとっては、貴重な存在であり、材料は古いけれど特に災害にでも会わねば、ここ暫くは持ちそう、自分の命よりは長く続きそうです。古家といえども、利用価値の大きいこの家を見るとき、利用するとき、自分達の小学校時代が思い出されてなりません。

次から次へと思ひ出は尽きぬが、限られた紙面、開校百周年を祝し、本校の益々発展を祈りつつ擱筆します。